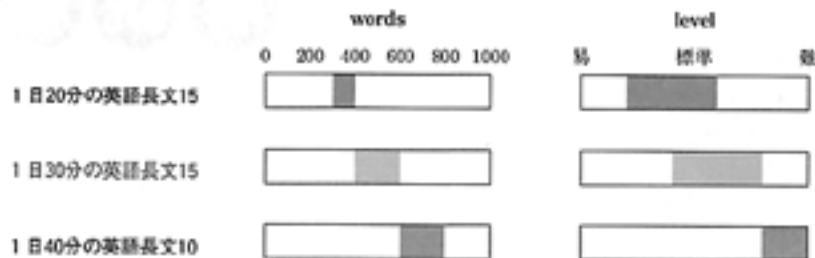


はじめに

大学入試問題では長文読解問題が大きな割合を占め、その出来が合否を大きく左右します。しかし長文といっても複数の文が集まったものですから、一文一文の構造を正確に捉え、その内容が理解できれば長文全体の内容も理解できます。この観点から、長さや難易度を基準に4冊の長文問題集「やっておきたい英語長文」にまとめました。これらは2004年12月に刊行して以来、2008年11月までにトータル18万部以上発行し、多くの受験生の評価を得ていますが、一方、もっと英文を読みたい、制限時間内でいかに英文を読んだらいいの、という声も私たちのもとに数多く届いていました。

みなさんも経験からわかっているでしょうが、「30分なら読めるのに」、「40分あれば全問解答できるはずだ」、ということがよくあるはずです。しかし入試においては限られた時間内にきちんと合格答案を仕上げなければなりません。そこで、私たちは今回、より解答時間を意識した問題集を作ることになりました。実際に出題された入試問題から近年の傾向を踏まえた上で、良質の英文を選び、3冊の問題集にまとめました。英文の分野も多様なものをセレクトし、設問も内容面から、また英語の理解という観点から問うべきポイントに焦点を当て、ほぼ全面的に作り変えてあります。

本書は好評を博した「やっておきたい英語長文」の姉妹書として作成しています。そのため設問解説、語句解説などの表記等を踏襲していますが、さらに詳しい解説がほしいという要望に応え **ココにも注意!** では設問にはなっていないものの、ぜひ押さえておきたいポイントを取り上げました。文法ポイントあるいは論旨の展開上重要な点について解説しています。また、**この単語に着目** では知っておくと武器になる、使える単語を取り上げています。英語学習の重要課題である語力増強に役立つよう、また確実に覚えられるよう工夫しました。単語集を丸暗記するのではなく、覚えやすく忘れにくいコツが盛り込まれています。



「1日30分の英語長文15」は、比較的出題頻度の高い400語から600語程度の標準からやや難しいレベルの英文15題で構成されています。内容一致、空所補充という客観式問題から下線部和訳問題、内容説明問題まで多様な問題を扱い、国公立および私大のほとんどの大学の読解問題に対応できるよう工夫してあります。「1日30分の英語長文15」を終えた人は、ゆるぎない読解力の完成を目指して「1日40分の英語長文10」に挑戦してみてください。

本書が志望校合格を目指して努力しているみなさんの学習の一助になれば幸いです。さあ、問題1にトライしてみましょう。

著者記す

1

クマと生態系

解答

- 問1 ・捕らえたサケを川岸か森の中に持っていく。(20字)
 ・サケの最も栄養価の高い部分だけを食べる。(20字)
- 問2 こうした対決は、比較的害のないもので、ある1頭のクマが他のクマから魚を盗むという結果になるか、あるいは暴力的なもので、一方のクマが重傷を負うか死んでしまうという形で終わるかのどちらかになりうる。
- 問3 実際のところ、クマが川岸へ死骸を運び、それがすでに産卵を終えた雌のサケだとわかると一口も食べないのはよくあることだ。
- 問4 エ. far more salmon
- 問5 クマの食べ残しのサケが、クマがいなければこうした食料を手に入れられない川岸の植物や動物にとって栄養源となっているから。(59字)

設問解説

- 問1 下線部は「2つのタイプの行動」という意味。直後の文に First とあり、1つ目の行動が述べられている。つまり「捕らえたサケを川岸か森の中に持っていく」こと。2つ目は第3段落第1文に The second important behavior とあるので、補語の部分である that 以下を答えればよい。
- behavior 「行動」
- 問2 either X or Y 「XかYかどちらか」の表現を押さえることがポイント。Xに当たるものが relatively harmless, resulting in one bear stealing a fish from another, Yに当たるものが violent, ending in serious injury or death to a bear である。resulting と ending は分詞構文で、それぞれ harmless, violent の内容を補足的に説明している。stealing は動名詞で、one bear がその意味上の主語である。なお、another は another bear のこと。また、serious injury と death が or で結ばれていることに注意。
- confrontation 「対決」 relatively 「比較的」 harmless 「害のない」
 result in A 「Aという結果になる」 steal 「盗む」 violent 「暴力的な」
 end in A 「Aで終わる」 serious injury 「重傷」
- 問3 形式主語構文 it is + 形容詞 + for A to do 「Aが…するのは～である」がポイント。carry a carcass to the riverbank と not eat ... her eggs が and で結ば

れている。after は前置詞で finding 以下は動名詞句である。that has already laid her eggs は a female salmon を修飾する関係代名詞節。

- in fact 「実際のところ」 common 「普通の、ありふれた」 riverbank 「川岸」
 a bite 「ひとかじり」 female 「雌の」 salmon 「サケ」
 lay eggs 「卵を産む」

問4 空所を含む文が Thus 「したがって」で始まっていることに着目する。これは結果を述べる副詞なので、その原因・理由は前に述べられているはずである。直前の文には「最もおいしい部分を食べた後、クマは死骸を放棄し、別の魚を捕らえるために川へ戻る」、さらにその前の文には「クマが川岸へ死骸を運び、それがすでに産卵を終えた雌のサケだとわかると一口も食べないのはよくある」とあるので、「クマは食べるよりもはるかに多くのサケを殺している」ことがわかる。したがって、エが正解。

- ア、「(食べる)のと同じくらいのサケ」
 イ、「(食べる)のよりはるかに少ないサケ」
 ウ、「(食べる)のより少し少ないサケ」
 エ、「(食べる)のよりはるかに多くのサケ」

問5 下線部は「クマは本当に生態系の立役者なのである」という意味。ecosystem engineers とは「クマが生態系を巧みに設計し処理する役目を果たしている」ということを比喩的に述べたもの。同一段落第1文には「クマの行動がなぜ生態系にとって重要なのだろうか」という問いかけがあり、第3文には具体的にクマの果たす役目が述べられている。したがって、この内容を制限字数内にまとめる。

- truly 「本当に」 ecosystem 「生態系」 engineer 「立役者/技術者」

ココにも注意！

第2段落第4文に except 「…を除いて」が用いられているが、except は前置詞でありながら、その後ろには when 節や前置詞句などさまざまな形を従える。

例1 They have a TV in every room, except in the bathroom.

「彼らの家は浴室以外のすべての部屋にテレビがある」

例2 I keep the windows open, except when it rains.

「雨のとき以外は窓を開けたままにしておきます」

要約

サケはクマにとって不可欠な資源であるが、サケの最も栄養価の高い部分だけを食べるというクマの採食行動は、川岸ばかりか森の動植物に栄養を与えることになり、生態系において重